



# ほけんだより

令和7年4月1日

こぼうしこども園



ご入園、ご進級おめでとうございます。

桜のつぼみも膨らみ出し、新しい園生活が始まりました。子ども達が心身健やかに元気いっぱい過ごせるような情報を

「ほけんだより」で毎月おとどけします。どうぞよろしくお願ひいたします。



## 体調不良時のおねがい

こども園では、保育中にお子さんが発熱した際は(38度以上)で連絡を入れさせていただきます。

38度以上の熱でなくても、お子さんの体調や、園の感染状況によってはお迎えのお願いをする場合もあります。乳幼児は体調が急変することも考えられるので、連絡を受けた際は早めのお迎えをお願いします。

厚生労働省の「保育所における感染症ガイドライン」では、「24時間以内に38℃以上の熱が出た場合は、登園を控えるのが望ましい」とされています。そのため前日の夕方や夜に38℃以上の熱があった場合は、翌日熱が下がっていたとしても園は休むのが望ましいでしょう。

同じく厚生労働省の「保育所における感染症ガイドライン」では、登園再開の目安は下記のように示されています。

- ・24時間以内に解熱剤を使っていない
- ・時間以内に38℃以上の発熱がない
- ・熱が37.5℃以下である
- ・食事や水分が摂れている
- ・全身状態がいい

上記に当てはまったとしても、咳や鼻水など発熱以外の症状がひどいときは安静にしたほうが子どものためになりますし、周囲の園児にうつしてしまうリスクもあります。

発熱の有無など風邪症状だけでなく、重要なのは子どもの様子です。食事がとれていない時やぐったりして横になりたがる時は自宅で安静に過ごしましょう。子どもの様子を見て、園で他の園児と同じ活動ができそうかどうか、判断のポイントになるかと思ひます。つらかったり、だるかったりするの大人同様に子どもも同じです。体が小さく体力のない子どもは更につらいかもしれません。(園では担任が様子を小まめにチェックし、いつも通り過ごせていないと保護者に連絡する場合があります。)

体調がおかしいと感じていても、病院へ行くことをためらっていたり、無理をさせて登園させたことで結果的に一週間も仕事を休むことになったという例もあります。熱がなくても気になる症状があれば病院を早めに受診することが早く治るコツです。集団生活ということをご理解いただき、他児への感染を防ぎ、病気を長引かせないための配慮をお願いいたします。



こども園では年に二回の内科健診と歯科検診が義務付けられています。その際に診ていただく、嘱託医の医師を紹介します。

## 園医の紹介



### ○小児科医

やまみこどもクリニック  
澁川 靖子 医師

#### 【前期内科健診】

4月9日(水)  
13:30 から

### ○歯科医

山田矯正歯科  
山田 宰士 医師

#### 【前期歯科検診】

6月6日(金)  
10:00 から

### ○薬剤師

ベース薬局山見町店  
栗城 佐和子さん

※健診の結果は担任を通してお知らせします。

また、年に二回の尿検査(前園児)も義務付けされています。日程はわかり次第お伝え

## 園での与薬について

○原則、園で薬を飲ませることはできません。(市内認可保育園共通)

診察の際、医師にこども園に通っていることを伝え、1日2回の処方が可能かを相談してください。

○慢性疾患などによる指示内服薬など、やむを得ず薬を持参する場合には、園にある「与薬依頼書」に必要事項を記入し提出してください。

その際は必ずお家の方から保育教諭等に手渡しをお願いします。また、「薬剤情報提供書」も合わせて提出をしてください。

※小児科など医療機関からの処方のみです。

頓服薬や吸入はお預かりしません。



## 予防接種をうけましょう！！

こども園はいろいろな子ども達が共に過ごす集団生活の場です。子どもは病気にかかりやすく、かかると重くなることがありますが、予防接種でそれらを予防する働きがあります。

病気ごとに適した時期があるので、かかりつけの小児科医と相談しながら計画的に接種しましょう。

予防接種の後は体調に変化が見られることがありますので登園は控えお家で様子をみてください。

